

## サイエンスカフェの概要について（事後報告）

1. 開催日時：平成 29 年 7 月 31 日（月） 14 時～15 時 30 分

2. 開催場所：島根県立出雲高校

3. 関係団体等：島根県立出雲高校・島根大学

4. 役割

講師：小玉 重夫（東京大学大学院教育学研究科研究科長、日本学術会議会員）

挨拶・コーディネーター・司会：

小松 久男（東京外国語大学特別教授、日本学術会議会員）

5. 概要：

今回のサイエンスカフェは、日本学術会議第一部の夏季部会を島根県松江市で開催する機会を利用して、同じ県内の出雲高校で実施することになった。同高校は、スーパーサイエンス・ハイスクールおよびスーパーグローバル・ハイスクールに指定されており、科学的リテラシーの育成や海外研修をはじめとして多彩な取り組みをおこなっている。カフェには、2・3年生を中心に12名が参加した。

小玉先生のお話は、18歳選挙権の歴史的な背景から始まった。最近の選挙の動向からは、争点が明確であれば投票率は上がり、選挙の結果が政治の方向性を変えるきっかけになっていることがわかり、したがって「政治的・社会的に対立する問題を取り上げ、関心を持たせたり、判断力を養成するような教育」が求められている、と説明は続いた。

カフェの後半では、各地での18歳の投票率が高いことを前提として、山陰地方での市長選挙を想定して、あなたが「多文化共生推進プラン」をめぐって争う候補者の選挙対策責任者だったら、どんな政策を考えるか、という課題が示され、4人ずつ3つのグループに分かれてプランを立てる、まさにアクティブラーニングが行われた。わずか15分足らずの短い時間だったにもかかわらず、他者の文化を学ぶためのインターンシップ、土地の年長者から外国人に方言を教える機会の提供、郷土料理の紹介など、さまざまなプランが提案された。

はじめはすこし緊張した様子であったが、小玉先生のわかりやすい説明と質疑が積み重なるうちに、打ち解けた雰囲気になっていくことがみてとれた。

6. 参加人数：

講演者等：2名

その他の参加者：生徒 12名、出雲高校新聞部員 3名、出雲高校教諭などの参観者 4名

7. 特記事項：

なし